

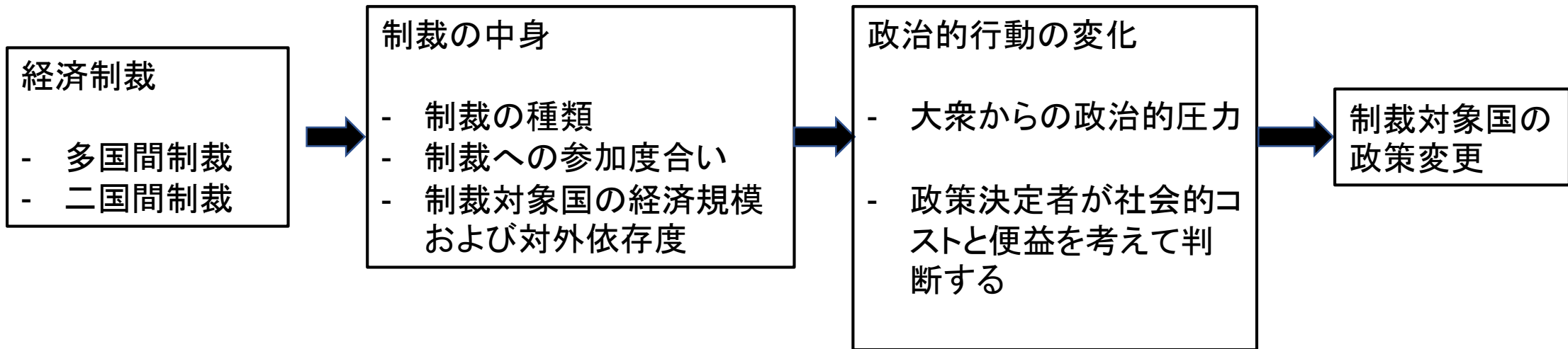
# 経済制裁実施後の北朝鮮経済

---

2019.9.19.

トン・ヨンスン (Good Farmers)

# 経済制裁のタイプ



# 対北朝鮮経済制裁の影響

## 貿易上の制裁

- 北朝鮮からの主要製品の輸入を禁止（石炭、繊維類、水産物など）
- 北朝鮮への石油の輸出を制限（年間200万トン）
- 北朝鮮への贅沢品、金属類の輸出禁止など

## 金融制裁

- 国際金融取引の禁止（secondary boycott）
- 海外資産の凍結（米国、日本など）
- 北朝鮮に対する直接・間接投資の禁止

## 個人に対する制裁

- 海外就業の禁止
- 海外渡航の制限



## 北朝鮮経済への影響

- 貿易規模の縮小
- 海外就業者の帰国
- 三国間取引の制約

## 北朝鮮の政策の変化

- 核実験および長距離ミサイル発射の中断
- 対米関係改善に向けた交渉

# 経済制裁後に注目される変化(1)

---

## • 政治的側面

- 自力更生の強調
  - ハノイ会談後の金正恩氏の発言「しばらく忘れていた…。米国との関係が改善されたら、すべてが解決するのではないかという、いらだちがあったのは事実だ」
  - 制裁の有無にかかわらず自力更生の強化
- ミサイルの政治利用の再開
  - 短・中距離ミサイルによる防衛体制の再編(米国によるINF条約(中距離核戦力全廃条約)脱退の影響)
  - 対米交渉の新たな外交的切り札
- 韓国外し
  - 対米関係を中心に国際社会との関係の改善については第三国を通さずに行う(朝鮮半島情勢の主導権を確保)

# 経済制裁後に注目される変化(2)

## ・経済的側面

- ・ 中央政府の力の強化
  - ・ 社会主義企業責任管理制、圃田担当制のパラドックス(30%の固定化)
  - ・ 各コルホーズと企業における食糧不足の現状
- ・ 市場の縮小
  - ・ 地方都市市場の縮小「消費者よりも供給者のほうが多い。」
  - ・ 新義州、平城、清津、沙里院などの市場縮小が顕著
- ・ 小幅な価格変動
  - ・ 需要と供給の同時縮小

2019年1～7月 平城市場における価格動向

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
(北朝鮮ウォン/kg)	米	4,794	4,875	5,250	4,780	4,600	5,000	<b>4,850</b>
	トウモロコシ	2,091	2,237	1,950	2,120	2,200	2,350	<b>2,400</b>
	大豆	3,986	3,625	3,580	3,500	3,520	3,430	<b>3,500</b>
	食用油	12,150	9,387	9,765	11,000	13,500	13,100	<b>12,800</b>
	小麦粉	3,550	4,662	5,500	4,300	4,300	4,000	<b>4,100</b>
	ガソリン	14,760	14,650	13,125	13,200	15,000	16,700	<b>16,700</b>
	軽油	8,610	8,692	8,725	8,800	9,700	9,400	<b>9,100</b>
	砂糖	4,180	4,687	4,654	4,700	4,610	4,350	<b>4,150</b>
	白菜	985	965	898	1,200	1,200	1,350	<b>850</b>
	石炭	150	175	165	170	230	190	<b>180</b>
豚肉	14,700	15,100	18,750	17,900	17,000	8,500	<b>9,500</b>	
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
(北朝鮮ウォン/米ドル)	為替レート	8,075	8,100	8,125	8,250	8,400	8,300	<b>8,310</b>

# 制裁が北朝鮮に及ぼした影響

---

- 北朝鮮の政策変更はあったが、最終的な目標である完全非核化には程遠い状態
  - 北東アジア地域に形成された米中対立の構図において、新たな北朝鮮の役割(中国警戒論および地域核の共同管理論)を活用
- 経済制裁は現在、中央政府の力を強化する一方、市場の力を弱める結果をもたらしている
  - 市場によって高まった対外依存度(約30%)を再び(10%以内)に低下させる結果
  - 市場の力によってもたらされる自由化を、外部からの制裁を通じて抑制

➡ 市場の力を強化し、中央政府の力を弱化させることのできる制裁の弾力的な運用が必要

ご清聴、ありがとうございました。